

月次レポート

第52号
2013年3月8日作成

ユニオンファンド

追加型投信／内外／株式
分配金再投資専用

～ マークのなかに託した私たちの想い ～

4世代(おじいちゃん・おばあちゃん、熟年世代、勤労世代、お子さんやお孫さん)をあしらいました。
ハンドinハンドで親近感や繋がり・絆を深め、
幸せの輪をひろげようという想いを込めています。

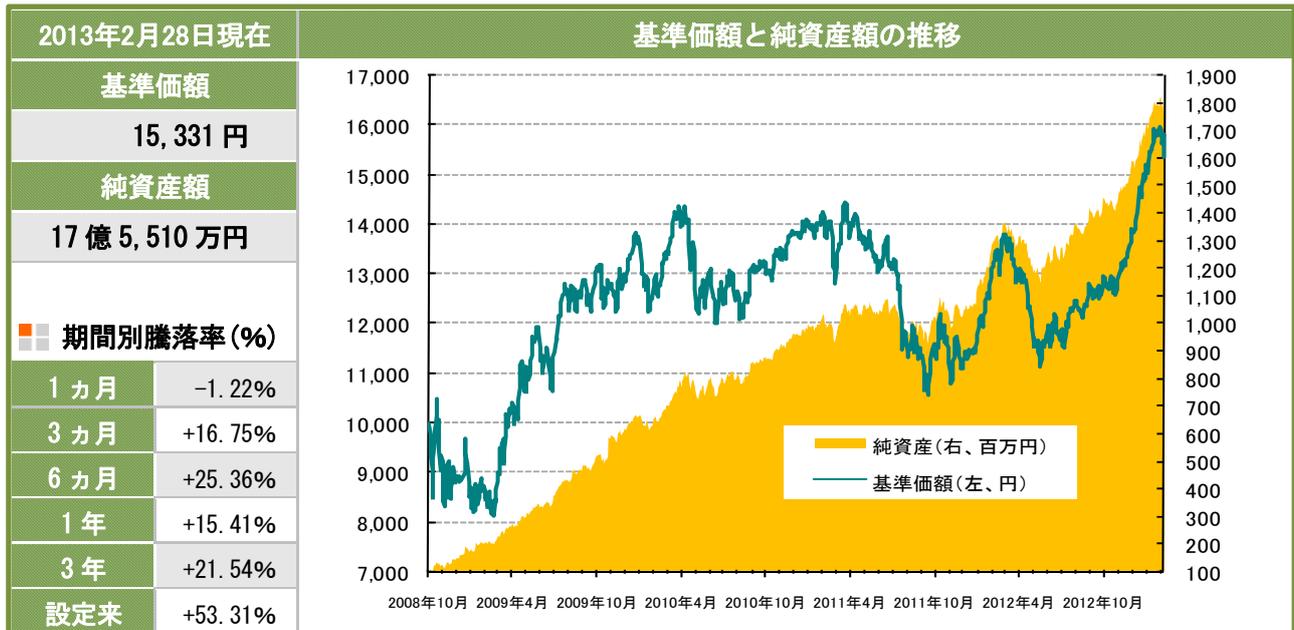


Union Asset Management Inc.
ユニオン投信株式会社

「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2013年3月8日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



*** 複利年率 +10.29%**

*「複利年率」とは設定から現在まで運用を行った結果、複利で換算した場合に何%でまわっていたかを表したものです。過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また個々の受益者ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

組入れファンドの内訳 (組入比率は2/28付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標投資比率	目標比
さわかみF	日本	11.7%	13%	-1.3%
キャピタルF	欧米	15.8%	18%	-2.2%
ハリスF	欧米	18.5%	20%	-1.5%
コムジェストF	新興国	43.2%	49%	-5.8%
キャッシュ	—	10.8%	—	—

小数点第2位を四捨五入

ファンドマネージャー コメント

韓国経済「繁栄への歩み」と「課題」

韓国では女性初の朴大統領が就任し、「第2の漢江(ハンガン)の奇跡」に向け、成長による雇用創出などに取り組む姿勢を強調しました。

韓国は1997年の危機を乗り越え、今や「サムスン」「ヒュンダイ」などの財閥が世界経済を牽引する時代となりました。

しかし、その繁栄の裏側には「少子高齢化」「産業空洞化」「所得格差拡大」など、日本と共通する課題もみられます。

今回は韓国経済の現状・課題をチェックしてみました。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

韓国経済の特徴

韓国の人口は日本の約4割、少子高齢化は世界最速(図1) 経済規模は日本の約2割(図2)、1人当たり所得は約5割

	韓国	日本
人口	約5,000万人	約1億2,000万人
名目GDP	約100兆円	約500兆円
1人当たりGDP	約200万円	約420万円

韓国は世界有数の貿易立国(貿易額はGDPとほぼ同額)(図2)

	韓国	日本
貿易額	約100兆円	約130兆円
同GDP比	約100%	約25%

韓国経済は4大財閥(サムスン、ヒュンダイ、LG、SK)が支配
 韓国:4大財閥売上 :GDP比 約5割の約50兆円
 日本:上位10社売上:GDP比 約2割の約100兆円

1997年の「通貨・経済危機」

1990年代前半は韓国を含めアジア諸国が成長の第一段階を迎えた時期

各国とも「外資導入」による工業化政策を推進

そのため、下記「外資導入促進策」を積極採用

- 1.基軸通貨「ドルにペッグ」して外資の為替リスクを軽減
- 2.「高金利」政策を採り自国の投資魅力を高める

しかし1995年以降、米国が「IT」による高成長を実現
 ⇒「ドル高」「米国金利上昇」へ

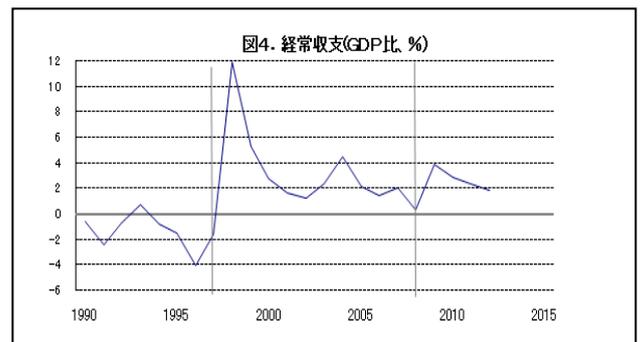
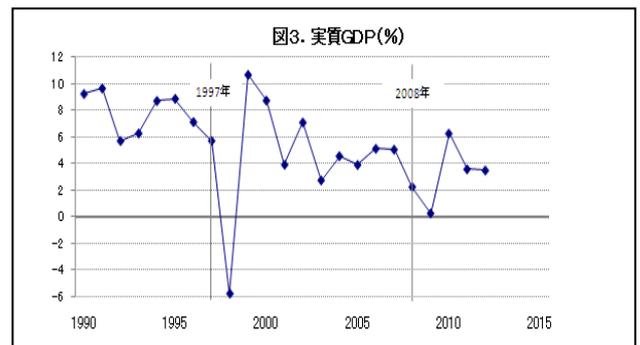
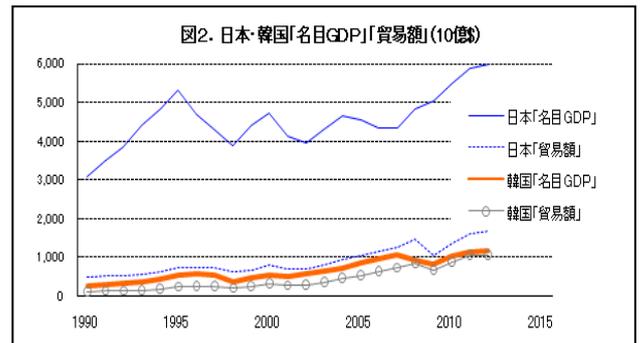
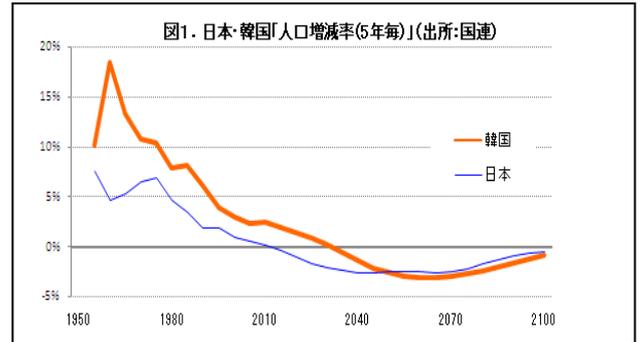
このためアジア各国は

- 1.ドル高「連動」で自国通貨が割高に
- 2.米国利上げへの「追随」で自国金利も引き上げ

その結果各国の輸出競争力が激減し、1997年のアジア通貨危機へ

その一環で韓国も「通貨・経済危機」へ

…「貿易赤字拡大」→「外貨大量流出(図6)」→「金融危機」
 →「財政破綻」「通貨・経済危機」へ



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託の受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

韓国の「通貨・経済危機」に対し、IMF が次のような厳しい条件を付けて「金融支援」

金融支援額・・・全体約 5 兆円(GDP 比約 1 割、内日本約 1 兆円)

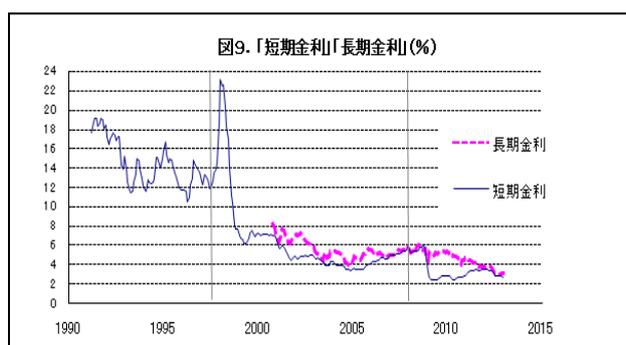
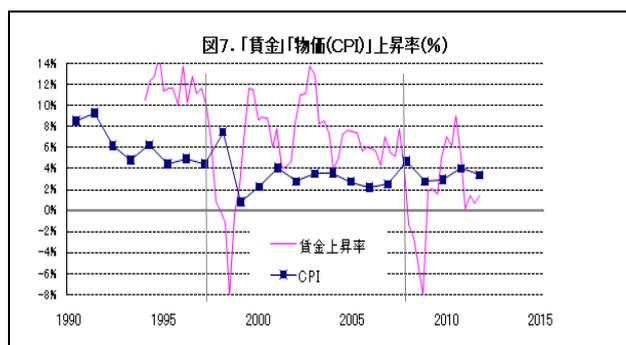
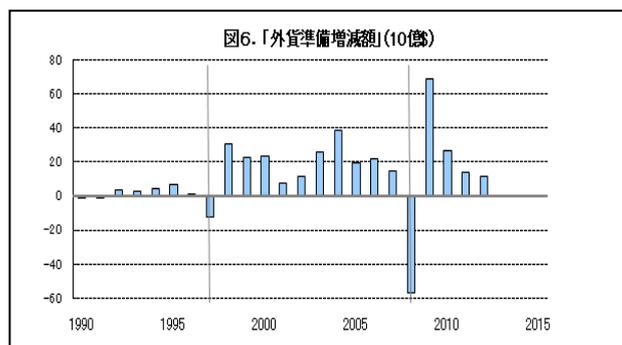
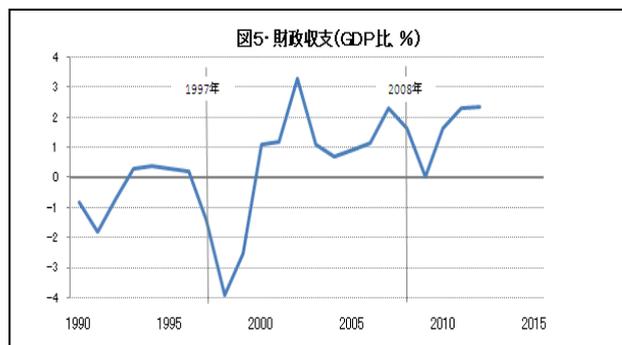
- 1.通貨大幅切り下げ後に完全「変動性」へ移行(図 8)
- 2.財政緊縮策(図 5)
- 3.賃下げ・労働市場の柔軟化(=競争力強化) (図 7)
- 4.利上げ(=インフレ抑制) (図 9)
- 5.銀行・財閥解体(=金融改革・市場開放)

⇒ 韓国は次のような経済激震のなかで IMF の「荒治療」を受入れ

- 経済成長:▲6%(図 3)
- 失業率:4%上昇(7%)
- 賃金:8%低下(図 7)
- 短期金利:11%上昇(23%) (図 9)
- 株価:約 6 割下落(図 10)
- 為替:約 5 割下落(図 8)

韓国は「荒治療」実施により輸出競争力を回復
次第に輸出が増大

⇒ 短期間で経済は正常化へ



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

危機後の飛躍・・・官民連携で輸出拡大

【輸出振興策】

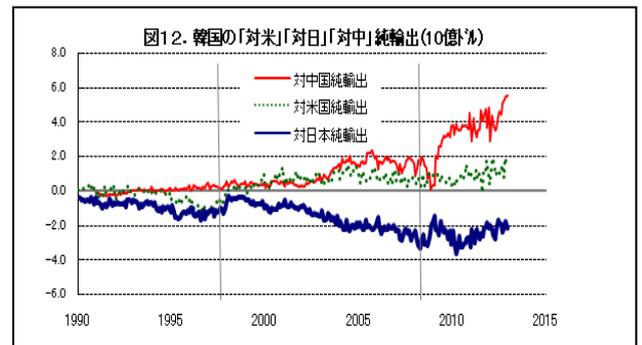
内需の小さい韓国にとって「輸出」は成長発展の原動力

- ①国が財閥を強力に支援
→ 財閥は大胆・迅速に投資判断
- ②低い法人税率:「24%」(日本:復興税込「38%」)
- ③積極的な「FTA(自由貿易協定)」で相互に関税引き下げ
・・・締結国:EU、米国、インド、ASEAN など
(締結国との貿易額:約 8 割(交渉国込み)、日本:4 割程度)
- ④「ウォン安」誘導(ウォンは取引量が少ないマイナー通貨のため誘導し易い)(図 11)



【韓国製造業の躍進】

- ◇先進国(特に日本)からの技術移転が成長の原点
- ◇電気機器・自動車・鉄鋼・造船などでは早くから日本のライバル
今や品質性能では肩を並べ、製品の一部分では世界標準も
- ◇マーケティング指向・現地化指向で海外シェアを拡大
(日本の「モノづくり指向・日本モデル指向」を凌ぐ)
- ◇電機・電子・自動車などの「部品・素材は日本依存度大」
(輸出が増えると、日本からの輸入も増える構造)(図 12)
→ 「技術の日本、コストの中国、デザインの韓国」という評価に



「輸出振興」「ウォン安」のデメリット

輸出主導経済は「99%の庶民を犠牲に、1%の財閥利益を図っている」という批判

- (1)物価を押し上げ、庶民生活を圧迫(所得格差が拡大)
・・・輸出価格を抑える一方で、輸入価格が上昇
→ 交易条件が悪化(図 13)

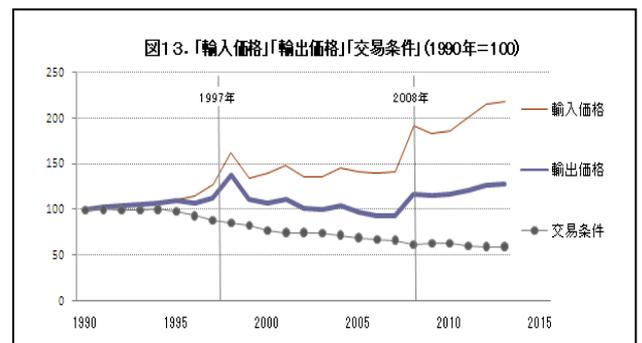


図 1～13 の出所: 国連、IMF、OECD、BIS、韓国銀行、Yahoo! ホームページ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

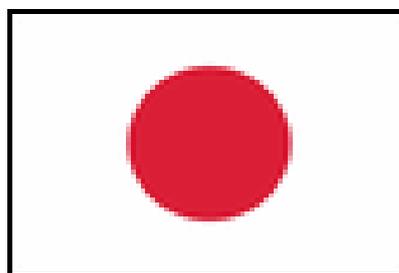
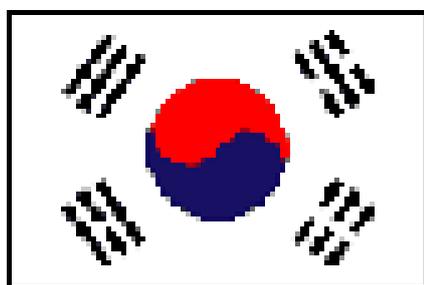
- (2)産業空洞化は日本以上
 - …財閥は「機械化」「海外生産」シフト
 - 国内雇用への貢献度が低下(スマートフォンはほとんどが海外生産)
- (3)激的な競争社会(大学入試、就職、企業内)
 - …「学歴・英語力」が競争条件
 - 過剰な教育熱(親が犠牲)
 - 大学卒業生の約4割が非正規社員として就職、フリーターも多数
 - 企業内競争の敗者は屋台などの自営業者に転落しているとも言われている

韓国経済「今後の課題」

- (1)「輸出主導」経済からの脱却
 - …財閥主導経済では雇用が増えない
 - 世界経済の影響を受けやすい
 - ⇒ 内需拡大へ
 - …雇用創出余地の大きい中小企業・サービス産業の育成
- (2)「少子高齢化」への対応
- (3)最近の「ウォン高」への対応
 - …2012年8月の韓国国債の格上げがきっかけで「ウォン高」に(図12)
 - (ムーディーズ:「A1」→「Aa3」へ…日本・中国と同格付け)
 - 更にアベノミクスが追い打ち
 - ⇒ 技術立国を目指し国際競争力を高める

ユニオンファンドの韓国企業への投資

ユニオンファンドは「コムジェストファンド」を通じて韓国企業に約3%投資しています。



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する、
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式時価総額シェアを基準に地域別「目標投資比率」を決め、それに基づき投資しています。現状では、世界の株式時価総額シェアに比べ、「日本」と「新興国」のウェイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場
「新興国」 : 伸び盛りの高成長市場
「欧米」 : 成熟した低成長市場

■ 2月は各市場まちまちの動きとなりました。

- ・米国…高値圏で乱高下。好調な経済指標や企業決算が株価を下支え
- ・欧州…ユーロ高による業績懸念や南欧債務問題再燃などから株価軟調
- ・中国…新政権への期待感の一方、欧米株価の影響を受け月後半には調整
- ・日本…円安一服で株価も月後半横ばいに。TPP 参加期待や日銀黒田新総裁への期待などが株価を下支え

■ 2月の基準価額推移…下旬までは一本調子の値上がりが続きました(高値: 2/21 15,957円、前月比+2.8%)。しかしその後は軟調に推移し、月末は15,331円(同▲1.2%)で終了しました。

■ 今月も新規組入れ(買い増し)を見送ったことから、月末の組入比率は「89.2%」(前月末比▲0.9%)となりました。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

- ・世界の株価は高値圏にあると観ています(2012年11月中旬以降、約3割上昇)。
- ・強気相場の中で、隠れていた不安材料が徐々に顕在化してきたように思います。

- ①企業業績に比べ株価が割高に(日米とも2013年度の利益を織り込んできた)
- ②南欧問題はまだ決着していない(イタリア政局不安が台頭)
- ③米国財政問題では財政縮小が不可避であり、景気にマイナス
- ④日本の「アベノミクス」効果も出尽くしへ(…株価を牽引してきた円安が一服)

- ・利益確定売りが出やすくなっており、株価下押し圧力が高まっていると考えています。

● 目標組入比率

- ・現在の「目標組入比率:85%~100%」を維持します。
- ・株価が大きく下落する局面では買い増しを考えます。

● 地域別目標投資比率

- 現在の「地域別目標投資比率」を維持します。
- …日本:13%、欧米:38%、新興国:49%

● ファンド選定

- 当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標投資比率

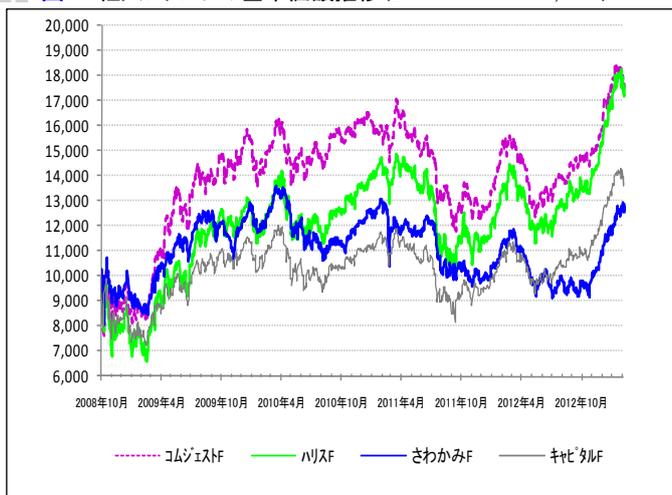
- 現在の「ファンド別目標投資比率」を維持します。
- …「さわかみF」:13%、「キャピタルF」:18%、「ハリスF」:20%、「コムジェストF」:49%

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

4ファンドとも今月下旬以降調整。
2月1カ月間の騰落率は次の通り
・・・「コムジェストF: ▲2.3%」、「ハリスF: ▲1.7%」、
「さわかみF: +2.7%」、「キャピタルF: ▲1.1%」

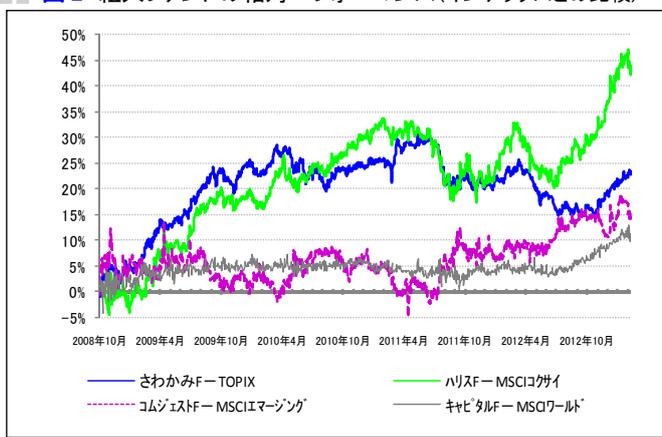
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「さわかみF」・・・設定来 22%凌駕
「ハリスF」・・・概ね 42%凌駕
「キャピタルF」・・・概ね 10%程度凌駕
「コムジェストF」・・・約 15%凌駕

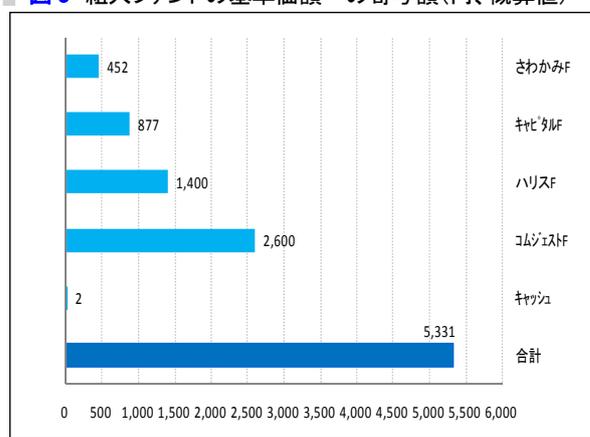
>> 図3 寄与額

2月末の基準価額が15,331円となっていることから、5331円の評価益に。その内訳を4ファンドに分解すると第3図の通り4ファンドともプラス寄与。なかでもウェイトの高い「コムジェストF」の貢献が大きい。二番手は相対パフォーマンスの高い「ハリスF」。「さわかみF」が急回復。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

「時価総額シェア」・・・

新興国: 長期的に上昇基調、最近弱含み

欧米: 低下基調、最近強含み

日本: 低下基調

「地域別目標投資比率」・・・

日本: 13%(シェア比+7%)

欧米: 38%(シェア比▲23%)

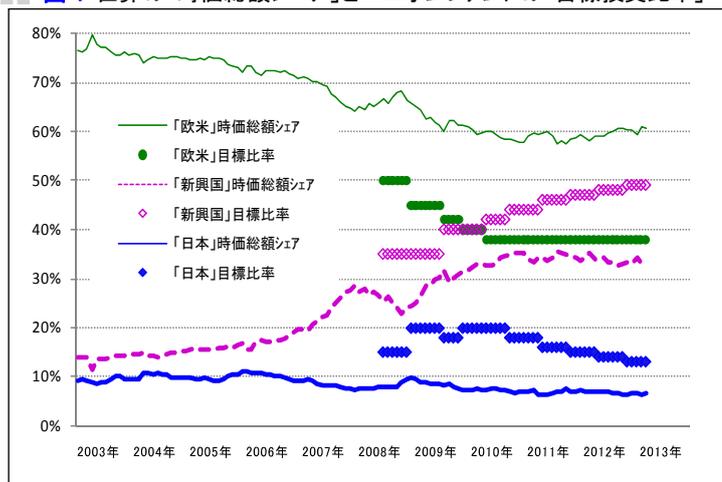
新興国: 49%(シェア比+16%)



運用部長 (ファンドマネージャー)

坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所) 「時価総額シェア」: ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

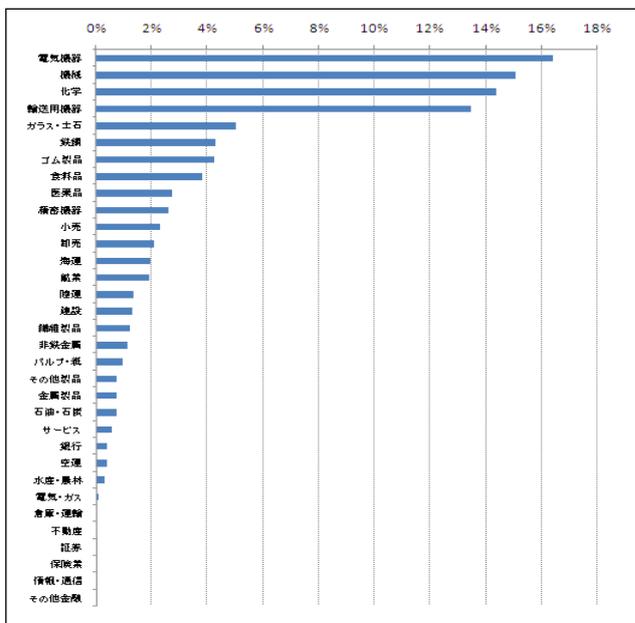
さわかみF（さわかみファンド）

株式組入上位10銘柄等

2013年2月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	トヨタ自動車	5.1%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
2	ブリヂストン	4.2%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
3	三菱重工	3.2%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
4	花王	2.8%	日本	化学	トイレット紙首位
5	デンソー	2.3%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
6	信越化学工業	2.1%	日本	化学	塩ビ・シリコンウエハー世界大手
7	商船三井	1.9%	日本	海運	海運世界大手
8	国際石油開発帝石	1.9%	日本	鉱業	石油メジャー
9	リコー	1.8%	日本	電気機器	事務機大手
10	ダイキン	1.7%	日本	機械	空調世界大手
上位10銘柄		27.1%			
その他144銘柄		71.6%			
キャッシュ		1.3%			

業種別構成比



業種：東証33業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

◆組入銘柄数は約150。

業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。

◆具体的には、

(1) 「電気機器」「機械」「化学」「輸送用機器」「ガラス・土石」「鉄鋼」「ゴム」など“ものづくり”、“輸出型”企業の比率大。

(2) “内需型”企業では「金融」「通信」「不動産」「倉庫」「公益」などの比率を抑え、「食料品」「医薬品」「小売」など“生活関連”にシフト。

◆円安・株高を受け“ものづくり”、“輸出型”企業を中心に一部利益確定売り。買い付けは見送り。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (キャピタル・インターナショナル・グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

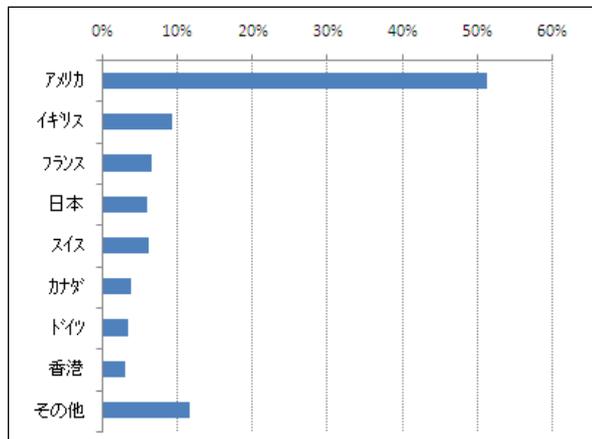
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2013 年 1 月末現在

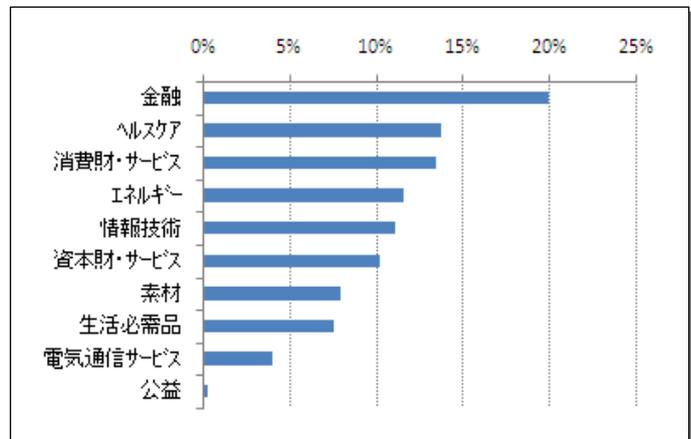
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Gilead Sciences	4.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
2	Bristol-Myers Squibb	2.2%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
3	Imperial Tobacco	1.9%	イギリス	生活必需品	タバコ大手
4	Goldman Sachs	1.9%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行
5	Danaher	1.9%	アメリカ	資本財・サービス	コングロメイト
6	Schlumberger	1.6%	アメリカ	エネルギー	石油掘削大手
7	Pernod Ricard	1.6%	フランス	生活必需品	洋酒大手
8	Prudential	1.5%	イギリス	金融	保険・金融大手
9	BB&T	1.5%	アメリカ	金融	米地銀(東部)
10	Nestlé	1.5%	スイス	生活必需品	世界最大の食品・飲料
上位 10 銘柄		20.0%			
その他 156 銘柄		76.8%			
キャッシュ		3.2%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資 (150~200 銘柄)。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ 半年前に比べ、割安な「消費財」「金融」「素材」が増加し、景気敏感セクターの「情報技術」が減少。
組入トップの「金融 (20%)」がパフォーマンスに大きく貢献。
組入上位は「金融」のほか、「ヘルスケア」「生活必需品」など安定セクターの銘柄が多い。

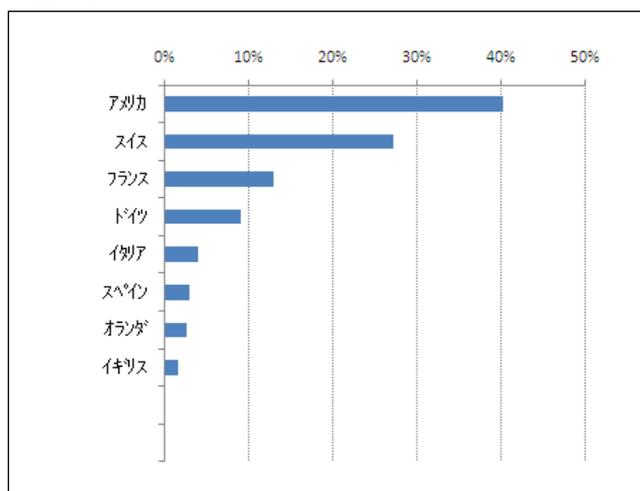
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2013 年 1 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	CREDIT SUISSE	5.5%	スイス	各種金融	金融大手
2	INTEL	4.5%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
3	STARWOOD HOTELS	4.0%	アメリカ	消費財・サービス	世界有数のホテルチェーン(シェラトンなど)
4	DAIMLER	3.9%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手
5	FIAT INDUSTRIAL	3.9%	イタリア	資本財	農業・建設機械
6	BNP PARIBAS	3.8%	フランス	銀行	金融大手
7	KUEHNE & NAGEL	3.7%	スイス	運輸	国際貨物運送
8	ADECCO	3.6%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開
9	PPR	3.6%	フランス	小売	高級ブランド
10	JULIUS BAER	3.6%	スイス	各種金融	プライベートバンク
上位 10 銘柄		40.1%			
その他 26 銘柄		55.3%			
キャッシュ		4.6%			

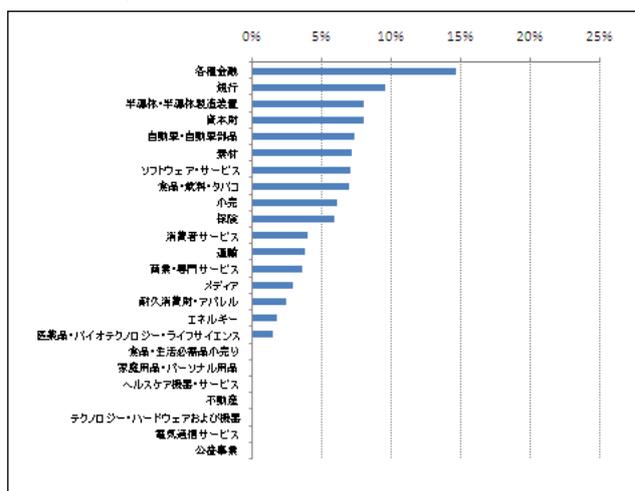
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2013 年 2 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本除きの世界各国に投資。
- ◆ 「金融」が最大の投資セクター(組入比率: 30%)。業績好調なカード会社や資産運用会社などの比率を高め銘柄選択効果を効かせている。今回の上昇局面では「金融」セクターの貢献度が大きい。
- ◆ それ以外では、景気敏感セクターの「半導体」「資本財」「自動車関連」「素材」「ソフトウェア」などのウェイトを高めている。
- ◆ 株価が動いてきていることもあり、目標圏に到達した銘柄の利食い・割安株の買い付けを活発に行っている。

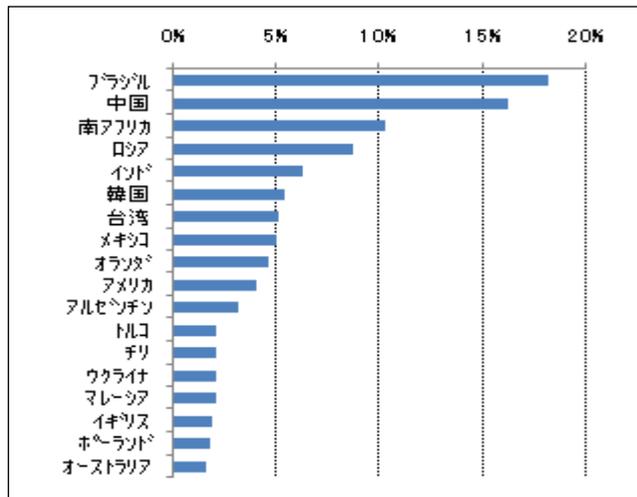
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託の受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2013 年 2 月末現在

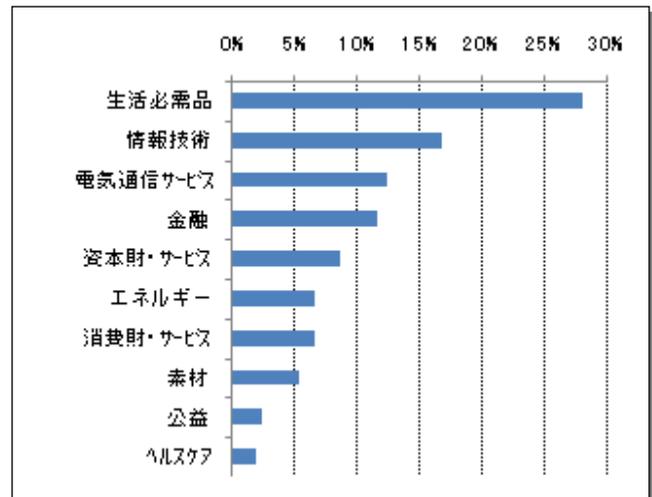
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	5.0%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	HEINEKEN	4.5%	オランダ	生活必需品	ビール世界 3 位
3	CHINA MOBILE	3.8%	中国	電気通信サービス	携帯電話
4	PING AN INSURANCE	3.5%	中国	金融	総合保険
5	CHINA LIFE	3.3%	中国	金融	生保
6	TENARIS	3.1%	アルゼンチン	エネルギー	石油掘削用油井管
7	JBS	3.0%	ブラジル	生活必需品	食肉加工
8	BUNGE	2.9%	アメリカ	生活必需品	植物油脂精製販売
9	SAMSUNG LIFE	2.9%	韓国	金融	生保
10	BAIDU	2.9%	中国	情報技術	ネット検索エンジン
上位 10 銘柄		34.9%			
その他 34 銘柄		63.6%			
キャッシュ		1.5%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 新興国の割に 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆ 財務体質健全、積極的な情報開示、株価割安な企業に選別投資。
- ◆ 高成長新興国の企業を中心としたポートフォリオ。
- ◆ 新興国市場の主要セクターは「資源・エネルギー」や「金融関連」に大きく偏っているが (BRICs 諸国では概ね 5~6 割程度)、当ファンドは「生活必需品」「通信関連」などの安定成長セクターに高ウェイト (資源・金融は 1~2 割程度)。このため新興国市場が市況高 (資源・原油高) で上昇する場合は追従できないことが多い。しかし市況の下落局面では当ファンドは下げ渋ることが多く、長期的な相対パフォーマンスは良好。
- ◆ 最近半年の動きでは、「情報技術」「資本財」「素材」などの景気敏感セクターが減少し、「生活必需品」「通信」「ヘルスケア」などの安定セクターや「生保」を中心とした「金融」セクターが増加。
- ◆ 組入 2 位 [ハイネケン]: オランダ籍だが、営業利益の過半が新興国 (特に東欧・アフリカ・ロシア等)。
- ◆ 組入 8 位 [BUNGE]: アメリカ籍だが、南米等新興国で活躍する農産物加工大手。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託の受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書 (交付目録見書) の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

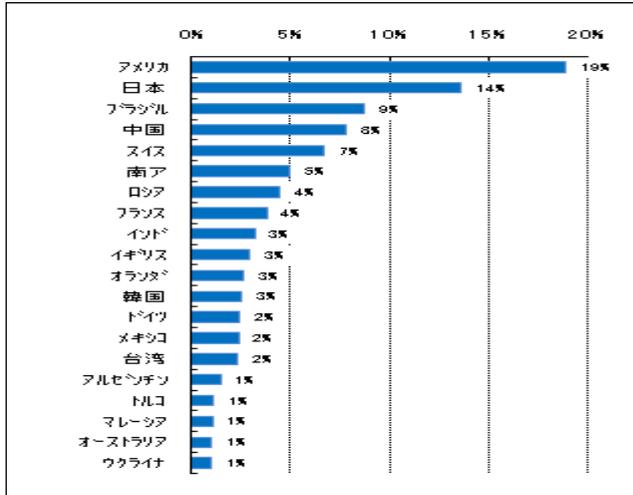
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2013 年 1 月末現在

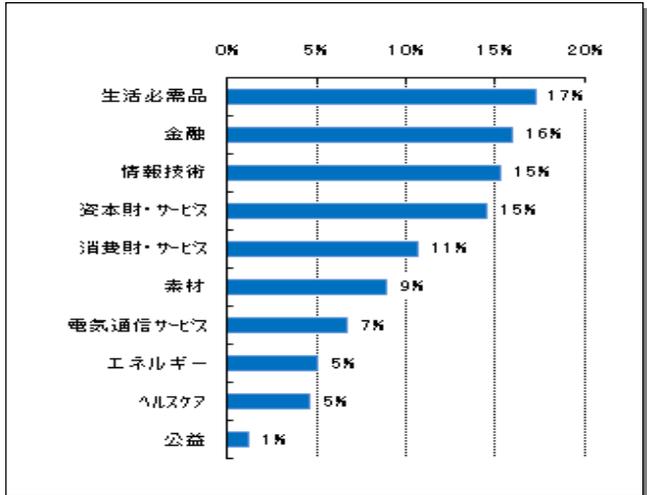
順位	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.3%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	HEINEKEN	2.1%	オランダ	生活必需品	ビール世界 3 位	コムジェストF
3	PING AN INSURANCE	1.8%	中国	金融	総合保険	コムジェストF
4	CHINA LIFE	1.8%	中国	金融	生保	コムジェストF
5	JBS	1.5%	ブラジル	生活必需品	食肉加工	コムジェストF
6	CHINA MOBILE	1.5%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
7	BUNGE	1.5%	アメリカ	生活必需品	植物油脂精製販売	コムジェストF
8	TENARIS	1.5%	アルゼンチン	エネルギー	石油掘削用油井管	コムジェストF
9	SAMSUNG LIFE	1.4%	韓国	金融	生保	コムジェストF
10	BAIDU	1.4%	中国	情報技術	ネット検索エンジン	コムジェストF
11	CREDIT SUISSE	1.1%	スイス	各種金融	金融大手	ハリスF
12	INTEL	0.9%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
13	STARWOOD HOTELS	0.8%	アメリカ	消費財・サービス	世界有数のホテルチェーン(シェラトンなど)	ハリスF
14	DAIMLER	0.8%	ドイツ	自動車・自動車部品	世界自動車大手	ハリスF
15	FIAT INDUSTRIAL	0.8%	イタリア	資本財	農業・建設機械	ハリスF
16	BNP PARIBAS	0.8%	フランス	銀行	金融大手	ハリスF
17	Gilead Sciences	0.8%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品パイオ	キャピタルF
18	KUEHNE & NAGEL	0.8%	スイス	運輸	国際貨物運送	ハリスF
19	ADECCO	0.7%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開	ハリスF
20	PPR	0.7%	フランス	小売	高級ブランド	ハリスF
21	JULIUS BAER	0.7%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
22	トヨタ自動車	0.6%	日本	輸送用機器	自動車世界大手	さわかみF
23	ブリヂストン	0.5%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
24	三菱重工	0.4%	日本	機械	世界的総合重機メーカー	さわかみF
25	Bristol-Myers Squibb	0.4%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品パイオ	キャピタルF
26	Imperial Tobacco	0.3%	イギリス	生活必需品	タバコ大手	キャピタルF
27	Goldman Sachs	0.3%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行	キャピタルF
28	Danaher	0.3%	アメリカ	資本財・サービス	コングロマリット	キャピタルF
29	花王	0.3%	日本	化学	トイレット紙首位	さわかみF
30	Schlumberger	0.3%	アメリカ	エネルギー	石油掘削大手	キャピタルF
上位 30 銘柄		29.5%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
その他 370 銘柄		60.6%				
キャッシュ		9.9%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 400、投資国数: 26 カ国。
- ☆組入上位 30 銘柄明細: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: アメリカが 1 位で 19%、日本が 2 位で 14%、3 位以下はブラジルの 9% など新興国が続く。
主要新興国ではブラジル・中国・南ア・ロシア・インド・メキシコの順。
- ☆業種別構成比: 「生活必需品」がトップ。次いで「金融」「情報技術」「資本財」の順。
最近 6 ヶ月間の業種別動向: 景気敏感セクターの「情報技術」「素材」が減少し、安定セクターの「公益」「通信」「生活必需品」「ヘルスケア」や割安な「金融」が増加。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

弊社役職員から、みなさまへのメッセージ

今号はファンドマネージャー コメントの説明量が多いことから、お休みさせていただきます。

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続き・手数料等」をご覧ください。 －

【申込手数料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

【信託報酬】 … 純資産総額に年0.84%（税抜き 年0.8%）の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年1.9%±0.3%（概算）]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ ご住所の変更をされるお客様へ ◆

弊社ではお客様のご登録情報に変更がある場合、各種変更用紙をご提出いただいております。

ご転居等で現在の登録住所を変更される方は、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までお電話にて変更用紙をご請求いただくか、弊社ホームページの「各種変更手続き」ページ「登録情報変更用紙請求」フォームにて承っておりますので、ご連絡をお願いいたします。

用紙が届きましたら、**新住所が証明できるご本人確認書類を添付の上**、弊社までご提出ください。

【ご注意ください】

- ・変更のご連絡がない間の弊社におけるお取扱いは、すべて旧住所でのご案内となってしまいます。
- ・海外へ転勤・移住等される場合は、お客様によって手続方法が異なりますので、**必ず出国される前に弊社業務管理部までお電話ください。**

◆ 月次レポート受取方法について ◆

【受取方法:「E-mail」または「不要(弊社 HP で直接閲覧)」のご選択にご協力ください。】

現在月次レポートを「郵送」でお受取りのお客様で、インターネット・E-mailをご利用いただける環境がお手元にありましたら、“受取方法を「E-mail」へ変更”にご協力方お願い申し上げます。

月次レポートは弊社お客様への配信後、一般公開として弊社HPにも掲載しておりますので、レポート「不要」をご選択いただきましても弊社HPへアクセスいただければ、いつでもご覧いただくことができます。

ご変更にご協力いただける場合は、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡いただくか、弊社ホームページ(<http://www.unionam.co.jp/>)の「各種変更手続き」ページより、変更手続きをお願いいたします。

E-mail や弊社HPでのレポートは「カラー」のため、ファンド概況やグラフ等鮮明に見ることができます。

エコの観点から印刷紙の削減を目標としております。どうぞご理解ご協力のほど、宜しく願いいたします。

◆ ユニオンファンドの換金(解約)について ◆

昨今「振り込め詐欺」や「なりすまし」など他人の情報を悪用する金融被害が多発しております。

ユニオンファンドの換金(解約)に際しては、お電話により弊社へのご登録内容に基づき、ご本人確認のうえ受付いたしております。**ご本人確認には、「弊社お客様コード(口座番号)」が必須となります。お客様におかれまして「弊社お客様コード」や本人確認事項(解約代金の振込先等)にご不明な点がある場合は、ユニオンファンドの換金(解約)をお受けすることができませんのでご注意ください。**

弊社へのご登録内容等に関してご不明な場合は、「総合取引口座 お客様控え」を再発行させていただきますので、事前に弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までお電話にてご連絡ください。

※直接販売にてお取引を行わせていただく上で、特に換金(解約)のご連絡は大変重要でございます。お客様の大切なご資産を守るためにも、何卒ご了承くださいご協力下さいますようお願い申し上げます。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。